



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2018～2019年度 RI会長 バリー・ランシ
RIテーマ インスピレーションになろう

クラブテーマ「あるがままの30周年<Let it Be 30year>
思いを込めて！」

副会長 山田定男 幹事 岡 良森

第1382回 例会
2018.9.17(月)晴

司会：服部光弥君

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

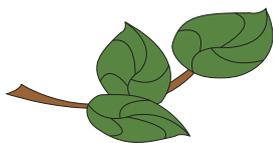
例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 石井司人君

今日から親睦委員会のメンバーによる、本年度第1回目の家族会です。企画にあたっては、メンバーの皆さんご苦労様でした、そしてご参加くださいました、ご家族の皆さんも一緒に楽しんでいただければと思います、会員一同願って居ます。会場や差し入れなどの用意まで何から何まで、ご苦労様でした、これからは、花火のラストまでゆっくりしてください。また、南熱海ロータリークラブの、鈴木会長さん、幹事の吉田さんも差し入れなどの用意していただき、ありがたく頂戴させていただきます。ご一緒にバーベキューを楽しんでいただければよろしいと思います。重ねてメンバー、ご家族とゲストには、ありがとうございます。



出 | 席 | 報 | 告 |

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	27/33	81.82%	28/33	84.85%
今回	22/31	70.96%	会員総数	35名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

石井(和)君、大庭君、小島君、田中君、中本君、藤川君、
矢岸君、山本君、渡邊君

(*出席免除会員の欠席者 太田君、大房君、片野君、兼子君)



ROTARY NEWS

2020-21年度ロータリー会長に スシル・グプタ氏を選ばれる

国際ロータリー会長指名委員会は、デリーミッドウェスト・ロータリークラブ(インド)所属のスシル・グプタ氏を、2020-21年度国際ロータリー会長に選出しました。対抗候補者がいない場合、同氏は10月1日に会長ノミニートとして宣言されます。

ロータリーの人道奉仕のインパクトを高め、会員基盤の多様化を進めることがグプタ氏の願いです。

「個人でできることには限界があります。しかし120万人ものロータリアンが一致団結すれば、不可能なことなどなく、世界を本当に変えることができます」とグプタ氏は声明の中で述べています。

グプタ氏は、Asian Hotels (West) 社の会長 兼 代表取締役社長であり、ハイアット・リージェンシー・ムンバイおよびJWマリオット・エアロシティ・ニューデリーのオーナーです。インドのホテル・レストラン協会連盟(Federation of Hotel and Restaurant Associations of India)の元会長、インド観光金融公社(Board of Tourism Finance Corporation of India)の元理事であり、現在はインドの観光振興を目的とする観光業界とインド政府の官民パートナーシップExperience India Societyの会長、Himalayan Environment Trust の副会長、Operation Eyesight Universal(インド)の理事を務めています。

1977年にロータリークラブ入会。以来、地区ガバナー、研修リーダー、リソースグループ顧問、数々のRI委員会の委員長、副委員長、委員を歴任しました。

水保全への貢献によりジャイプールのIIS大学より名誉理学博士号を授与されたほか、観光と社会福祉事業における功績が認められ、インド大統領より、社会市民に贈られる賞としてはインドで4番目に高いPadma Shri賞を受賞しています。

ロータリー財団では、人道的・教育的プログラムへの支援が評価されて特別功労賞を受賞。ヴァニタ夫人とともに、ロータリー財団のメジャードナーおよびアーチ・克蘭フ・ソサエティのメンバーとなっています。

海洋生物とフィリピンの漁村の 人々の生活を救ったロータリー 歯車形の人工サンゴ礁

ラモン湾の静かな青い海。その底に、地元漁師の誇りとロータリーへの感謝を示すかのように、ロータリー歯車形の巨大な人工サンゴ礁が見えます。

1990年代の終わりから2000年代のはじめ、この辺りでは大きな商業漁船によってダイナマイト、シアン化物、メッシュ網を使った漁が横行し、地元漁業が壊滅的な被害を受けていました。沿岸の村々にとって漁業は欠かせない産業であり、長年、村の漁師たちは家族を養うこの海を守るために闘ってきました。

2005年、漁師たちはアチモナン・ロータリークラブ(フィリピン、ケソン州)に助けを求めました。

そこで同クラブは、米国カリフォルニア州のマデラ・ロータリークラブと手を組み、ロータリーの補助金を利用して予算100万ドル以上のプロジェクトを開始。ロータリー歯車形の人工サンゴ礁をつくりました。この人工サンゴ礁には、サンゴが育つための十分な面積と、魚たちが住むためのたくさんの奥まった空間がありました。沿岸から600メートルのところにあるこの鉄筋コンクリート製歯車は、高さ4メートル、直径21メートルで、重さは数トンあります。

今日、フィリピン最大の人工サンゴ礁とうたわれるこの歯車は、サンゴに包まれ、アジ、クロハギ、フエダイ、ハタ、ハタタテダイ、ヒラメ、コバンアジ、バットフィッシュ、バラクーダなどの魚が集まっています。数回の台風も耐え抜きました。

「サンゴ礁ができる前、一人1キログラム程度の魚しか穫れなかった」と話すのは、アチモナン・ロータリークラブのオカ・チュア元会長です。「今では1日に一人2キロぐらい穫れます」

この取り組みがもたらした恩恵は、魚の保護だけではありません。サンゴ礁のおかげで観光客が増え、村の経済もうるおいました。漁師たちは竹製のいかだを作り、ダイビングや魚の餌付けを楽しむ観光客に貸し出しています。

(フィリピンのロータリー地域雑誌に掲載された記事より)